認知症になったからといって、 その人がその人であること、 個性や人間性は変わりません。 これまで通り好きなことをしたり、 人と交流したりしながら、

その人らしく

暮らしていくことができます。



誰しもが認知症を自分事として捉え、 認知症の人の心に潜む気持ちや、

自分だったらどうしてほしいかを

考えることが、認知症になっても住み慣れた地域で 安心して暮らしつづけるための大切な一歩です。





○認知症の相談窓口

○認知症サポーター養成講座

〇男性介護者のつどい

○認知症カフェなど

発行:清田区保健福祉課 保健支援係 (令和6年8月作成)

こんなイメージありませんか?



認知症になると 何もわからなくなる

理由もなく 急に怒りだす 言われたことを何も 覚えていない

認知症

症状は悪くなる一方で よくならない 失敗しても本人は 気づいていない

何でもやって あげなければならない

SAPP_RO

認知症とは?

様々な脳の病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、 認知機能(記憶、判断力)が低下して、社会生活に支障をきたした状態

認知症の症状はさまざまですが、「覚えられない」「思い出せない」といった記憶のトラブルだけではありません。

時間や日付の 感覚が曖昧になる

目で見たものを 把握しづらい

2つの情報が重なると理解できない

自分で計画をたてて 実行することが難しくなる

などのトラブルが生じる方もいます。

認知症の人の気持ち

また失敗すると思うと怖い

自分の話を聞いてもらえない 信じてもらえない

できないことばかり見られて辛い



次々に口出しされると 混乱する

世界が飛ぶように早く感じる

やってもらうばかりでなく、 自分も役に立ちたい

自身の変化にとまどい、誰よりも不安に感じているのは本人です。 記憶はとぎれとぎれになったとしても、「嬉しい」「楽しい」「怖 かった」などの感情はしっかりと残っています。

認知症の人と接するときに大切なこと

否定しない、失敗を責めない

視野に入って話す

本人に尋ねる、確かめる

穏やかに、はっきり優しい口調で

できる部分を応援、できない部分はサポートを

大切なのは「認知症の人」ではなく、 一人の人として接すること

症状はゆっくりと進行していきますが、 周りの接し方次第で症状が和らぐことがあります。

